

★国連安保理で主権尊重を主張したアフリカ諸国＝アフリカン・タイムズ

米国の要請で1月27日に開かれたベネズエラ問題に関する国連安保理は、意見が鋭く分かれたが、理事会のアフリカ諸国はマドゥーロ政権の排除ではなく、国内対話とベネズエラの主権尊重を強く主張した。

会合では、初めにロシアが問題を理事会でとりあげることに異議を唱え、米国が政権転覆の国際的な策謀をおこなっていると非難した。米国と西欧、ラ米諸国は、1月23日に臨時大統領を宣言したグアイド国会議長の政権を承認した。

この結果、ベネズエラ問題を安保理の議題にするかどうかについては9対4で承認されたが、南アと赤道ギニアはロシア、中国とともに反対票を投じ、もうひとつのアフリカ選出の理事国であるコートジボアールはインドネシアとともに棄権した。

コートジボアールのウルフラン代表は、ベネズエラの問題の平和解決を強く促した。同国では長期にわたる政治的、経済的な緊張が街頭に溢れだし、少なくとも26人が犠牲になっている。人権団体によれば、治安部隊との衝突で数百人が逮捕されている。

赤道ギニアのドン・ムバ代表は、危機は主権国家の内政問題であり、解決はベネズエラの憲法にのっとったものでなければならないと強調した。マドゥーロ大統領は2週間前に二期目に就任したばかり。国際社会にはその正当性を問題にする声もあるが、国際秩序への脅威というレベルではない。

同代表は安保理に、中東やアフリカで外国政府が政権転換を望みながら事後の出来事を無視したことが悲劇的な結果を招いたと思い起させた。

赤道ギニアの立場は、ブラジルと正反対のものだ。同国ではボルソナロ新大統領がアルゼンチンやチリ、ペルーなどリマ・グループと連合してマドゥーロ政権と選挙のプロセスを違法と非難して、政権の承認を拒否した。

南アも安保理の非常任理事国だが、同国は一月早々ラマポーサ大統領が、選挙が実施されたベネズエラの自決権に基づいてマドゥーロ大統領に祝電を送った。

国連安保理で同国のジェリー・マツィラ代表は「我々が大事にしている南アの立

憲民主主義の創設原則は、法の支配の尊重だ」と指摘。「ベネズエラで明らかなのは選挙を決定する憲法メカニズムの裏をかくような企てであり、はれわれは深く憂慮する」とのべた。

マツイーラ代表は、ベネズエラの違法な政権転換に断固として反対すると言明。安保理は非倫理的な策動にくみするべきでないという説得力のあるロシアと同様の立場を繰り返した。しかし米国のポンペオ国務長官は中国とロシアは両国ともベネズエラに投資した何十億ドルの資金の回収のためにマドゥーロ政権を支えていると反論した。

このため中国代表は、米国の非難に強く反論し、中国は他国の問題には介入しないと強調した。これはベネズエラ問題に対する中国の立場だ。中国外務省の報道官は「中国は他国の内部問題への不干渉の原則を一貫して追求してきており、ベネズエラの内部問題への外国の介入に反対する」とのべた。

アフリカ諸国が中国、ロシアと連携する一方、英仏、カナダはグアイド支持グループにはいっている。ドイツとスペインも英仏に同調し、ベネズエラに新たな選挙を行うよう主張。欧州連合（E U）は「自由で信頼できる選挙をおこなうプロセスを始めるよう」よびかけた。

しかし南アはそうした立場に反対だ。マツイラ代表はロシアのメディアにたいし、E Uはそういう立場を改めるべきだと述べた。マツイーラ代表はまた、ベネズエラの人道上、人権上の危機には深く憂慮していると述べた。

（アフリカン・タイムズ 1 月 27 日）

（以上）